

施策評価シート

令和 5 年度

総 体 系 計 画	分野	1	第 1 章	地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち	施策統括課	農業振興課
	施策No.	4	施策名	総合的な農業の振興	課長名 (施策統括責任者)	山田 勝利
	関係課	農業振興課 農村環境課 農業委員会				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	農業者の所得が確保され、安定した経営がなされている。また、農業振興地域において、整備された優良農地が保全されている。
取組方針	付加価値の高い農産物の生産支援、6次産業化による加工品の開発等を促進するとともに、販路の拡大を支援します。また、農地の集積や新技術の導入を進めるなど、農業生産の効率化・低コスト化を推進します。集落の衰退を防ぎ、担い手を確保するため、農村集落の住民の生活環境整備を進めるとともに、集落営農組織の法人化などの環境整備を行うことにより、効率的な生産環境を整えます。

2. 施策の意図と成果指標

対象 (誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等	農業者、農業振興地域において整備された優良農地						
意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)	農業の経営基盤の強化や担い手の確保等に取り組み、市民 (生産者と消費者) の理解と信頼に基づく、豊かな佐賀市農業を創造する生産者を育成していく。また、農業振興地域において、整備された優良農地を保全する。						
成果指標 A							単位
農業産出額							億円
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
242.3	243.0 221.7	243.5 231.4	244.0 223.2	244.5 226.7	245.0 0.0	245.5	
成果指標 B							単位
農業振興地域における農用地区域面積							ha
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
12677.0	12616.0 12449.0	12612.0 12446.0	12610.0 12441.0	12610.0 12437.0	12608.0 0.0	12606.0	
成果指標 C							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	
成果指標 D							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	
成果指標 E							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	

施策評価シート

3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	51.7%	50.2%	↓
ある程度重要である	36.5%	33.2%	↓
あまり重要ではない	3.8%	4.2%	↑
重要ではない	0.8%	1.7%	↑
順位	10/36位	10/36位	⇒

施策の満足度	前回	今回	
満足している	3.3%	2.8%	↓
どちらかといえば満足	41.1%	39.3%	↓
どちらかといえば不満	32.9%	33.2%	↑
不満である	7.1%	6.0%	↓
順位	30/36位	28/36位	↑

4. 社会潮流等の変化について（第2次総合計画策定時からの市民ニーズの環境の変化、法整備状況等）

- ・ウクライナ情勢や円安の影響により、農業生産資材の価格が高騰している。
- ・コロナ禍により消費者の食への安全・安心志向はさらに高まり、消費者の食行動が変化していることから、消費者が求める食料の安定供給のため、農業生産基盤の強化が求められている。
- ・近年は記録的な大雨が頻発していることから、農地の持つ多面的な機能を十分活用し、水害等により市民生活へ大きな影響が及ばないよう対応していく必要がある。

5. 施策を推進していく上での新たな課題、新たな視点

- ・将来にわたって農業・農村を維持・発展させていくためには、農業を産業政策として一層強化して収益性の向上を図るとともに、多様な担い手を育成・確保し、継続して経営に取り組める環境づくりが必要である。
- ・本市は土地利用型農業の経営体为中心であることから、今後は更なる効率化、低コスト化を推進するとともに、高収益作物の生産を推進することで、持続性・発展性のある農業を構築していくことが重要である。
- ・SDGs等に代表される環境等の持続可能性の取組が主流化してきている現状を踏まえると、地域内循環の促進や、生産者と消費者の相互理解に基づく都市と農村の交流や共生を促進することが重要となる。

6. 施策の課題解決に向けた今後の取組の方向性・内容等

- ・佐賀市の強みを活かした収益性の高い農産物の生産・販売の取組を推進する。
- ・生産性の向上を図るため、大規模化や団地化、担い手への集積化・集約化を図る。
- ・スマート農業を推進し、農作業の効率化・省力化を促進する。
- ・佐賀ブランド確立による他産地との差別化、継続した販路（国内外）の確保を図る。
- ・多様な担い手の育成と確保を推進するとともに、産地における新たな担い手の受入れ体制の充実を推進する。
- ・仕事としての農業の魅力発信を強化する。
- ・災害に強い農業・農村づくりを推進する。
- ・地域資源を活用した安全・安心で、人にも環境にもやさしい農業を推進する。
- ・生産者や農産物の情報発信により、消費者の関心を高めるとともに情報の交流によるつながりを創出する。